

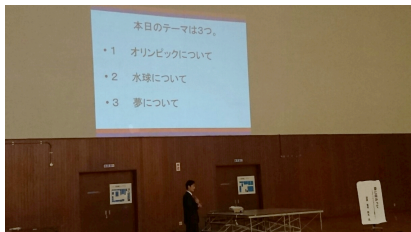
平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

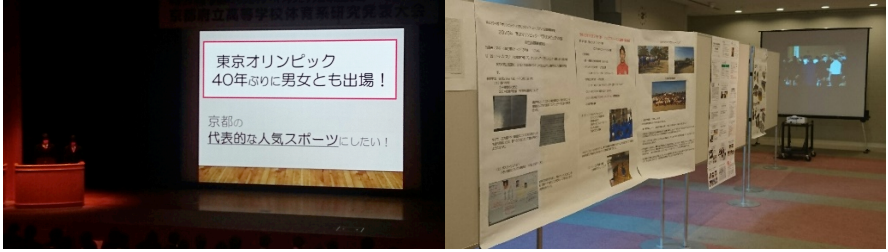
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京都府立高校体育系連絡協議会】

1 実践テーマ	【I・V】
2 実施対象者	1年：240名 2年：240名 3年：40名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	スポーツの価値を実感させるとともに、スポーツへの多様な関わり方について深く考える機会とし、2020年以降のスポーツ文化の広がりにも貢献する人材を育成する。
5 取組内容	<p>スポーツ健康科学科設置校である乙訓高校及びと普通科スポーツ総合専攻設置校である5校（洛北高校・鳥羽高校・西城陽高校・久御山高校・綾部高校）により組織された京都府立高校体育系連絡協議会において取組を実施。</p> <p>(1) 講演 講師 筈井 翔太 氏 ブルボンウォーターポロクラブ柏崎所属 リオデジャネイロオリンピック水球競技日本代表 府立鳥羽高等学校出身 演題 夢の実現</p> <p>各校1年生が一同に集まる中で講演会を実施。講師は体育系設置校である鳥羽高等学校出身の筈井氏に依頼。「オリンピックについて」「水球について」「夢について」の3つを柱とする内容の講演。先輩の経験談等から自分の「今」、そして「将来」を考えた。</p>  <p>(2) 研究発表大会 各校において、生徒が運動やスポーツについて自ら設定したテーマに沿って研究課題に取り組み、6校の生徒が一堂に会する場で、校内選考で選ばれた優秀グループが研究発表を実施。学びの成果を共有した。 あわせて、参加各校は、自校で取り組んだオリンピック・パラリンピック教育の内容をまとめた掲示物を作成し、ロビーに展示。ま</p>

	<p>た、参加校以外を含む府内推進校の取組の様子をスライドショーで提示。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 講演の講師を関係校の卒業生に依頼。自分たちと同じ環境のなかで育ち、現在世界的に活躍している先輩の話を聞くことで、より身近で現実的な問題として、体育系コースでの学びを生かしたスポーツへの関わり方など、自己のキャリアデザインについて考える機会となった。</p> <p>(2) 課題研究において、自分たちでテーマを設定し、仲間と意見を交わしながら試行錯誤を繰り返し、結論を導き出すとともに、研究発表大会において、その成果を広く共有する取組により、「主体的、対話的で深い学びを」実現することができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 講演 昨年度は講演と研究発表を同日に実施。「限られた時間の中に多くの内容を組み込みすぎた」という反省を踏まえ、今年度は講演と研究発表を別日に実施。 また、事後学習として、感想文をもとに互いの考えを共有する機会をもち、講演を受けての考えをより深めた。</p> <p>(2) 研究発表大会 発表後に質疑応答と同志社大学スポーツ健康科学部：竹田正樹教授による講評の時間を設けた。本研究発表会を成果発表の機会にとどめるのではなく、今後のより発展的な研究へとつながる機会となるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>より充実した研究発表を実現するためには、テーマ及び仮説の設定の段階の指導が重要である。関係校の教員が指導方法等について情報共有し、より効果的な指導の在り方を研究したい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>講演の講師は、2020年以降のスポーツ文化の広がり貢献する人材育成の観点から、多様なスポーツへの関わり方について考えさせるため、スポーツを「支える」立場の方も候補として検討したい。</p>